

日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会ニュース

発行所：日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会事務局 〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学医学部衛生学
公衆衛生学教室 TEL 0263-37-2622 FAX 0263-37-3499 発行責任者：地方会長 野見山 哲生



巻頭言



『労働災害ゼロを目指して』

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会 長野県理事
長野県医師会 副会長

飯塚康彦

毎年、多くの方が労働災害により死傷しています。その度に、労働災害に係わる様々な人々が心を痛めます。長野労働局では、『労災による死亡者を、悲しみをゼロに』を合言葉に、死亡災害の撲滅を目指し、労働災害防止対策を推進しています。また、県内の労働災害統計等をまとめた冊子「労働災害の現状と課題」を初めて長野労働局のHPに公開し、その旨も周知しています。

令和3年の長野県内の労働災害による死亡者数は15人（令和4年は12月末現在の速報で20人）と、今なお毎年多くの尊い命が失われています。また、休業4日以上死傷者数は2,132人（前年比94人増加）で、直近15年間で最多となりました。このうち、60歳以上の死傷者数は601人（全体の28.2%、前年比60人増加）でした。事故の型別では、「転倒」が28.3%、「墜落・転落」が15.4%、「動作の反動・無理な動作」が14.4%で、この順に多くなっています。寒冷地である長野県では、冬季において「転倒」災害が増加します。

長野県内の60歳以上の常用労働者（令和3年）の割合は約14%で、高齢労働者の労働災害の特徴は、「転倒」が42.6%、「墜落・転落」が29.6%と多いことです。厚生労働省のまとめでは、令和3年の労働災害による休業4日以上死傷者のうち、60歳以上は38,574人で全体の26%でした。10年前の約1.6倍に増えています。高齢労働者が働くには、より安全な職場環境作りが欠かせません。加齢に伴い筋力が低下し、注意力も散漫になります。厚生労働省は令和2年に「エイジフレンドリーガイドライン」を作成しました。凍結路面での転倒対策、手すりの設置、段差解消など具体的な対策を事業者に求めています。高齢労働者は、医療機関への通院や治療の機会も増えるため、仕事と治療の両立支援も必要になります。

労働災害による「死亡者をゼロに」はもちろんのこと、「死傷者をゼロに」を目指して、安心して健康に働くことができる職場の実現に向けて取り組んでいかなければなりません。

令和 5 年 9 月 17 日（日）、長野県長野市において第 66 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会を開催いたします。一般演題、特別講演、シンポジウムなどを予定しています。初秋の信州で、久しぶりにマスクなし(?)でお会いできるのを楽しみにしています。多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

第 65 回北陸甲信越地方会（福井）開催報告

2022 年 10 月 16 日（日）に、第 65 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会が、福井県医師会長の池端幸彦先生を学会長として、福井市のハピリンホールで開催されました。本学会は、新型コロナウイルス感染の収束が見通せない状況の中、前回の新潟での学会に続き、現地参加と Zoom によるオンライン参加のハイブリッド形式としました。学会には 79 名の方にご参加いただき、うち現地参加は 55 名（会員 39 名）、オンライン参加は 24 名（会員 21 名）でした。中には関東地方や関西地方からのご参加もありました。学会のプログラムとしては、午前一般演題と総会、午後特別講演 2 題の構成としました。

一般演題では、地方会を構成する 6 県全てから計 7 題の発表があり、活発な質疑応答が行われました。発表内容は生活習慣病予防、健康増進、産業保健活動支援、化学物質の毒性など、多岐にわたります。午後は、産業医部会および産業看護部会との共催のもと、2 題の特別講演を企画しました。1 題目は「化学物質による労働災害防止のための新たな規制の概要について」というテーマで、福井労働局労働基準部健康安全課の井関武彦課長にご講演いただきました。現在、厚生労働省では化学物質規制体系の見直しが行われており、危険性・有害性が確認された物質のリスクアセスメントに基づく自律的管理への移行が進められています。講演では、化学物質管理の現状と問題点、化学物質規制に関わる法令改正の概要や今後のスケジュールなどについて話題を提供していただきました。2 題目

は「働く人のための”やる気”の心理学」というテーマで、福井大学医学部行動科学分野の安倍博教授のご講演がありました。講演では、動機づけとはやる気を起こさせるきっかけであり、それが行動につながり、さらにその行動の結果が後の行動へ影響をもたらすことについて、YouTube の動画を交えながら解説がありました。講演の結びとして、やる気のもととは人によって異なり、やる気を出させるためには、その人をよく知って信頼関係を構築した上で結果を評価することが重要であるというお話がありました。今回は特別講演の動画を Zoom で収録して、12 月末まで参加者や地方会員の皆様にオンデマンドで視聴いただける試みを行いました。本学会が参加者の皆様の今後の産業保健活動に少しでも役立ちますと幸いです。

次回の地方会学会は長野で開催される予定です。新型コロナウイルス感染が収束して、以前のように会員の皆様が学会等で対面で交流できる機会が増えることを期待しています。

（文責：平工雄介）



地方会事業から

『富山県産業医会の 30 年』

富山県産業医会は平成 4 年 4 月富山県医師会員の産業医の医会として発足しました。令和 3 年の会員数は 152 名です。産業看護師、保健師、衛生管理者、学識

者も参加できます。年 1 回の総会、数度の研修会、研究者の助成金もあり、「労働衛生のしおり」も会員に配布しています。

ここ 10 年の講演のテーマは①化学物質管理、②運送業の健康、③職業復帰事例、④癌免疫療法、⑤印刷工場の肝臓、⑥ブルガダ症候群、⑦カドミウムとダイ

オキシソールなどでイタイイタイ病の演題もあります。医師会の研修会の講師派遣や工場巡視の事例検討会への参加もあります。工場巡視を重要と考え、また作業環境測定士による講演も聞いています。小グループのワークショップ形式でじん肺フィルム読影会やメンタルヘルス事例検討会も行いました。わずかな一歩の積み重ねだと思いますが、よい環境で働けることを願って医会活動をつづけています。

(文責 藤澤貞志)

会員の取り組み



『コマツ栗津工場健康管理室の産業衛生活動』

コマツ栗津工場健康管理室
畑中修敏

コマツは、石川県小松市が創業の地であり、ブルドーザや大型ダンプトラック等の建設機械を製造販売しています。2021年に創立100周年を迎えました。その中で栗津工場は歴史ある基幹工場であり、当健康管理室はグループ企業の先陣を切って様々な安全健康活動を実施しています。

社員の在職中死亡を減らすため、定期健康診断の二次検査/精密検査受診には力を注いでいます。愚直に勧奨を繰り返すことで、毎年対象者全てが二次検査を受診しています。なお、当健康管理室には「コマツクリニック」が併設されており、生活習慣病の検査治療も行われています。健康保険組合と連携し、特定保健指導や被扶養者健診は工場構内でも受診可能です。当健康管理室で起案した「コマツがん検診ガイドライン」により、胃がん検診、女性がん検診、節目ドック（胃内視鏡、胸部CT、腹部超音波）や脳ドックが、弊社グループで実施されています。

2006年社員全員にストレスチェックを開始、2008年に高ストレス職場を対象に職場環境改善を実施しました。現在では、全職場・全員参加の「いきいき職場ミーティング」に進化し、会社全体の衛生活動としてしっかりと根付いています。2021年6月からは、新型コロナワクチン職域接種を開始し、最終的に石川県内で約1万件の接種を実施しました。重篤な副反応もなく安堵しています。また、2024年に構内完全禁煙を目標としています。世界禁煙デー、週毎の禁煙日を設定し、健康保険組合とコラボした禁煙チャレンジ（費用の補助、社内での禁煙外来と禁煙教育）、定期的な喫煙所パトロールにより、栗津工場内の喫煙所が約3分の1に減りました。

今後も健康で働き続けられる安心職場を継続させるため、日々の活動に勤しんでいきたいと思っています。

『長野県産業看護部会の活動』

当部会では長野県産業看護研究会として、年1回の研修会を開催しています。2020年からは長野県産業保健総合支援センターにもご協力いただき、オンライン研修会も共催として全面的にバックアップしていただくなど、活動を力強く後押ししていただいています。

2022年度のオンライン研修会は、6月に2部構成で実施しました。第1部では「長野市保健所のコロナ対策について」と題し長野市保健所健康課の佐藤恵子課長補佐にお話しいただきました。新型コロナウイルス第6波での実際の対応について、感染者数の数値だけでは見えない現場のご苦労や、過酷な状況で地域を支える保健師自身のメンタルケアの工夫などをうかがいました。第2部では「テレワークが従業員のメンタルヘルスに及ぼす影響とその対策」をテーマに、伊東労働衛生コンサルタントオフィス代表の伊東明雅先生にご講演いただきました。テレワークにより生じやすい健康問題やそれらへの対応について、先生のご経験も交えながら具体的にお話しいただき、大変有意義な研修会となりました。

今年も長野県で北陸甲信越地方会が開催されます。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

(文責 荻久保裕子)



新潟産業保健総合支援センター

興梶建郎



昭和 47 年、労働安全衛生法が誕生し、「産業医」が法文上で正式な名称となり、一定の権限を持たされ、産業衛生活動の中心的役割を担うことになった。今年誕生してから 51 年目になる。高度成長下での危険有害作業から日本社会は脱却を目指し、安全、衛生の仕組み作り、教育、研修は労働界に浸透した。昭和 36 年の死傷病災害者 49 万人台を最高に昭和 50 年代に入って減少し始め、平成 21 年の 10 万人台を最少に最近では若干増加しているのは気になるところである。

この間、化学物質、石綿・粉じん、電離放射線対策など有害作業の管理では一定の進化を見せ、職業病対策の成果を上げてきた。その後、作業関連疾患、生活習慣病の概念が入り、労働者の日常的管理が大きな課題となって今日まで続いている。生活習慣病対策で労働時間管理が表面化し、仕事と生活のバランスが論議されるようになった。背景には過労死問題と精神疾患労災認定の表面化と増加があった。過重労働対策から長時間労働の是正、精神疾患の労災認定件数の増加は右肩上がりであり今日まだ下降する方に向っていない。

働く人の精神疾患、うつ病、適応障害などが表面化し、ようやくその本体のいじめ、パワハラに言及するようになった。労働界の長年の課題に漸く光が当たってきた。産業医は高ストレス者の面談に対応することが求められている。小職も多くの対象者に係っているが、そのお話から、浮かび上がるのは人間関係によるストレスの増大である。高ストレス反応の根源の殆どに人間関係、隠れいじめ問題が潜んでいるとって過言でない。

産業医はストレスチェックの実施者になり、大事な個人情報にも踏み込むわけであるが、我々は刑法での守秘義務を課せられているのであるから、毅然として困難に向かい合わねばならないし、又、向かい合える

のでもある。労働安全衛生法でも勧告権という重い責任行使がある。伝家の宝刀を抜くことまでは必要ないが、持っていることを念頭に落ち込んでしまう対象者の上手な聴き手となり、寄り添い、良質な提言と、毅然と組織に向かい合って解決の方向を探るキーパーソンとなっていかなければならない。

新入会員紹介



富士電機株式会社 山梨工場

保健師 藤巻佐和子

この度、日本産業衛生学会に入会させていただきました藤巻佐和子と申します。現在、富士電機株式会社山梨工場にて、産業医の小林正洋先生のご指導の下、保健師として働いております。

従業員の健康管理をはじめ、メンタルヘルスや過重労働対策、健康づくりや職場復帰支援など、従業員が心身ともに健康で充実した生活を送れるようにサポートしております。従業員の皆様は、多くの情報をもって健康管理室を訪ねて来られます。

昔と違い、SNS 等で簡単に情報が手に入るため、正しい情報もあれば間違った情報もありますが、多くの方は、自分の良い方に解釈されており、対応に苦慮することが多いです。伝えたいことが伝わらず、間違った解釈をされてしまうことも多く、悩むことも多々ありますが、時には泣いて、時には笑って、しかし「従業員の為に聴き、考え、支援出来る」この仕事にやりがいを感じております。

今後は学会の活動を通し、さらなる専門性を高め、自身の向上に努めてまいりたいと感じております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



私たちの職場 『関西電力(株) 高浜発電所』 産業保健師 白崎友理子

当発電所は、若狭湾沿岸の入り組んだ地形を利用して建設されている原子力発電所です。当社が保有する運転可能な 7 基の原子炉のうち 4 基があり、40 年超運転を初めて達成した原子力発電所です。今年で 1 号機の営業運転開始から 48 年になりました。

現在、専属産業医 1 名、保健師 2 名の体制で、約 590 名の社員の健康管理を行っています。また、企業内診療所として、従業員の予防接種や診療も行っており、さらには発電所入構者 3000 人～5000 人の怪我や急病の対応も行っています。新型コロナウイルス感染症については、診療も行いますし、職域接種も 4 回目接種を 1050 名の規模で行っています。

私は 1998 年に入社しました。当時は、3 か月ごとに電離健診があったので、健康診断処理に追われる 1 年でしたが、電離健診が年 2 回になり、健康診断の電子化と委託化が進み、従業員に会う機会が減り、さらに看護職同士でもリモートで会議をするので、心寂しさを感じています。

最近特に力を入れているのは、健康診断の結果を用いた職長面談です。所属員の健康管理区分や喫煙率を用いて、職場内で禁煙や健康の保持増進に取り組んでもらえるよう、産業医がお話をします。これが好評で、職長がまずやる気になり、そして中心となって健康活動を実践していってくれるので、安全健康活動計画が実のあるものになってきました。また、面談を定期的に行っているおかげで、職長が日頃感じていることと、ストレスチェックの集団分析結果が合致するので説得力も増し、アクションチェックリストを実践する職場が増えてきました。

今年度の安全健康活動計画では、In Body という体組成計を使って、パーフェクトボディにどれだけ近づけたか競い合うインボディコンテストを行っていますが、その測定のために従業員が健康管理室を訪れたところを積極的に話しかけ、ちょっとした健康教育を行っています。

このように、つながりを大切にし、職位に関係なく、どなたさまも相談、雑談、冗談大歓迎、いつでもウエルカムでフレンドリーなのが私の職場です。



第 66 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会（告知）

日 時：2023 年 9 月 17 日（日曜日） 9：00～15：15（予定）

会 場：ホテルメトロポリタン長野（〒380-0824 長野県長野市南石堂町 1346 JR 長野駅ビル直結）

長野県医師会長 竹重王仁 先生を大会長として、長野県長野市で開催致します。
総会当日は一般口演、特別講演を予定しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

問い合わせ先

第 66 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会事務局

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室内

TEL：0263-37-2622 FAX：0263-37-3499 E-Mail：jsoh_hk_region@shinshu-u.ac.jp



事務局から

理事会報告

○2022年度北陸甲信越地方会理事会

下記の通り行われました。

【日時】2022年10月15日(土)

【会場】ハピリンホール(福井市) / zoomを併用

○役員変更のお知らせ

▷福井県理事: 高山英之

(高山産業医事務所)

日本産業衛生学会役員・地方会長 選挙結果

○選挙の結果、地方会長・本部理事・代議員は

以下の通りとなりました。

<地方会長> 野見山哲生

<本部理事> 櫻井勝、野見山哲生

<代議員>

石川: 石崎昌夫、亀田真紀、櫻井勝、田畑正司、南昌秀、森河裕子

富山: 稲寺秀邦、小野島尚子

長野: 飯塚康彦、井手陽子、荻久保裕子、吉川恵造、志摩温、塚原照臣、仲佐美鈴、野見山哲生、長谷川航平、鷲塚伸介

新潟: 小坂智恵子、鈴木美和、中平浩人

福井: 佐藤一博、白崎慶子、高山英之

山梨: 金子誉、小林正史、小林正洋、角田ひろみ、西野顕久、丸山猛士、宮村季浩、望月明彦、依田芳起

(敬称略・五十音順)

お知らせ

○2023年度北陸甲信越地方会研究助成公募

ふるってご応募ください。

【対象】

- ・産業医学分野における優れた業績が期待できる研究または実践活動
- ・医師以外の地方会所属の会員によるもの

【研究助成金】

1件につき10万円

【採択件数】

1または2件

【提出書類】

[2023_地方会助成金要領.pdf](#)

[2023_地方会助成金申請書i.docx](#)

【申請書の提出先】

北陸甲信越地方会事務局宛

【請書の提出期限】

2023年5月31日(水)

今後の行事案内

○2023年度北陸甲信越地方会 常任理事会

日時: 2023年6月17日(土)

会場: 長野東急 REI ホテル(長野市)

○2023年度北陸甲信越地方会 理事会

日時: 2023年9月16日(土)

会場: ホテルメトロポリタン長野(長野市)

○第66回北陸甲信越地方会 学会・総会

開催日: 2023年9月17日(日)

大会長: 長野県医師会会長 竹重王仁

事務局長: 信州大学医学部教授 野見山哲生

会場: ホテルメトロポリタン長野(長野市)

編集後記

この度、北陸甲信越地方会の地方会ニュース第12号を発行することができました。コロナウイルスの5類感染症への移行を間近に控え、産業保健活動への取り組みも新たな局面を迎えようとしています。本号では、会員の皆様の従来からの取り組みだけでなく、コロナウイルス対策以外の新たな取り組みもお知らせすることができましたことを喜ばしく思います。発行に際してご協力、ご尽力いただきました先生方へ改めて感謝申し上げます。

今後も地方会員の皆様の活動や取り組みを広報し、地方会におけるさらなる産業保健の発展を皆様とともに担って参りたいと思います。ご意見やご感想などございましたら編集委員までお寄せ頂けると幸いです。

編集委員(五十音順)

編集委員長: 森河裕子

副編集委員長: 塚原照臣

編集委員: 池田裕子、稲寺秀邦、遠藤和男、小坂智恵子、佐藤一博、高山英之、角田ひろみ、西澤依小、松永康弘、丸山猛士

事務局: 當房浩一、長谷川航平、水木将

